発掘コラム　中世特集①　近代まで使われていた礫敷き路　～伊勢原市　西富岡・向畑遺跡～

これまでにも度々紹介してきました伊勢原市西富岡・向畑遺跡で新たな発見がありました。今回は中世から続く礫敷きの路を紹介します。

平成26年度に15区の現農道の下を調査したところ、礫敷きの路（Ｃ１号路）が見つかりました。路は、東西に約56m、幅約１ｍで富岡丘陵に向かって登り勾配で一直線に伸びた後、丘陵に沿って南に向きを変えています。路面には、大量の河原石が敷き詰められていました。礫の下からは、波板状凹凸面と呼ばれるピットや楕円形の窪みのほか、路に併行する溝も確認されており、かなり入念な地業が施されていました。この路は、横断面の観察から1707（宝永４）年の宝永火山灰が降下する以前には作られており、それ以降にも盛土をして路面を整地した痕跡が見つかりました。1887（明治20）年の「フランス式彩色地図」にもほぼ同じ場所に路が描かれているので、近代に至るまで補修を繰り返しながら使われていたと考えられます。

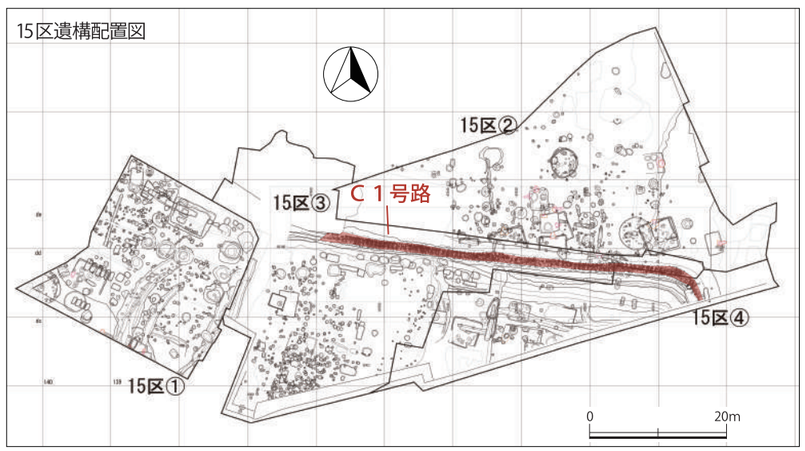
＊近年伊勢原市内の調査で大山道などの街道が見つかってきており、それらの遺構と区別するために、本遺跡では「路」の文字を用いました。

C1号路近景（西から撮影）

C1号路全景（西から撮影）

↓ 礫をはずしてみると…

C1号路掘り方（西から撮影）



発掘コラム　中世特集②　希少な遺物と遺構群　～伊勢原市　東富岡・南三間遺跡～

遺跡全景（上が南）

▲猿形土製品（高さ約5.2㎝）

東富岡・南三間遺跡は、富岡丘陵の東に派生する谷間に位置し、台地から低湿地へいたる緩斜面から中世の竪穴遺構や地下式坑、土坑、井戸、区画溝等が発見されました。遺構周辺から鉄滓が出土することから、本遺跡は鍛冶関連遺跡と推定されます。

出土遺物は、中国より搬入された青磁、白磁、国産陶器には常滑窯（愛知県）の甕・鉢などの陶磁器や土器の皿である「かわらけ」の他に石製品・土製品・鉄製品・銅製品・木製品が出土しました。中でも注目されるのは右下写真の左側の地下式坑から出土した石製の硯で、裏面に河内入道などの名が罫書きされ、有力武士の出家後の名乗りと推定されます。また猿形土製品は鼻が飛び出し、丸い目と両頬に３本の短沈線が施され、愛嬌ある表情を見せています。

▲裏面に罫書きされた石製の硯（長さ約9.6㎝）
※罫書き部分は白字でトレース

▲関東ローム層に掘り込まれた地下式坑（主室2.4m×2.6m、竪坑0.6m×0.5m）